

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”

～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和2年度福岡教育事務所管内生涯スポーツ担当者等研修会（会場＋オンライン開催）	
期 日	令和2年12月1日（火）	
参加者	21名（会場12名＋オンライン9名）	
日 程	時 間	内 容
	13:30～14:00	【受付】※ZOOM入室時間
	14:00～14:05	【開会行事】
	14:05～14:20	【説明】「障がい者スポーツ推進の現状と課題について」 スポーツ局スポーツ振興課 事務主査 福岡教育事務所担当 上野 貴裕
	14:20～15:20	【講話】「障がい者のスポーツ活動を推進するためにわたしたちができること」 大濠公園ブラインドランナーズクラブ（チーム道下）所属 株式会社カムラック 就労支援員 堀内 規生 氏
	15:20～15:30	【質疑応答】
	15:30～15:35	【閉 会】
活動の 実際	【説明】 担当から、テーマ設定の理由や、本研修の流れについて説明を行なった。「生涯スポーツとは、国民のだれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむこと」である。それにも関わらず、令和元年度の調査によると、成人の障がい者の週1回のスポーツ実施率は25.3%にとどまっている。そこで、テーマに係る国の法律、県の条例を示しながら、障がい者スポーツ推進の必要性について話した。 また、事前アンケートの中で表記されていた、「今後どのように取り組んでいくかが課題」「関係者が連携して障がい者スポーツを支援するための仕組みが構築できていない」などの、参加者が抱えている悩みや課題を提示し、その解決のヒントとするために、今回の研修会で堀内規生氏を講師として招聘したことを説明した。	
	【講話】 堀内氏は、数々の世界大会・国内大会で活躍中の、視覚障がい者マラソン日本代表の道下美里選手の伴走を務めた経験があり、現在は障がい者の就労支援に携わる仕事をする傍ら篠栗町のスポーツ推進委員としても活躍している。その幅広い経験から、多岐に渡ってお話ししていただいた。 講話の内容は以下の通りである。 ○ 視覚障がい者マラソンの伴走について 「目になりきる」という考え。ペースアップを促すときの声のかけ方や歩幅の合わせ方が大切。ロープを引っ張ることや、励ましや助言はNG。	



【担当による説明】



【堀内氏による講話】

活動の 実際	○ 2016 年に出場したりオパラリンピックについて レースの後半から伴走を担当。酷暑の環境下で、ロープから道下選手の状態を察知。報告会での道下選手の「伴走者の 2 人がいたから」「私だけではなく、伴走の 2 人への声援が嬉しかった」の言葉に感動。 ○ わたしたちにできることについて キーワードは、「身近・すぐに・実現」。健常者と同じように、障がい者がスポーツをしたと思ったときに、自然に相談したり始めたりできる環境であることが大切。 ○ スポーツ推進委員として 篠栗町内の視覚障がい者の希望もあることから、堀内氏が伴走を務める形で、実際に町内でマラソン体験会を行う予定。 【質疑応答】 視覚障がい者から行政への要望の有無や、道下選手のモチベーションを高めるために伴走者として心がけたことは何か、各市町で障がい者スポーツを推進していくためには何が大切か、など 5～6 つの質問が上がった。 オンラインでの参加者からは、ZOOM のチャット機能にて質問を受け付け、会場にてその内容を堀内氏に伝えて、回答してもらう場面もあった。 この時間を通して、スポーツに係わる私たちが、まずは障がい者スポーツについて知ること、そしてそれぞれの環境で自分にできることをやっていくことが大切であることを再認識することができた。 【オンラインでの参加者】
全体を 通して	【事後アンケートから】 ○ 陸上は一人で行う競技のイメージが強いですが、一緒にチームとして関わることで喜びを得られるのだと、堀内氏のお話を聞いて強く感じました。 ○ 障がい者スポーツをする側・支える側の裾野を広げていくことが大切だと思いました。両者へのアプローチの仕方を考えていきたいと思います。 ○ 堀内氏の「身近に」「すぐに」「実現を」という言葉が印象に残りました。「周りの環境を整えること」が大切なのだと感じました。 ○ 障がい者スポーツを特別なものと思わず、いつでも体験できるような知識や環境を整えておくということ。 ○ 特別支援学校の特設授業のサポートなど、わたしたちにできることを積極的にやり続けたいと思います。 ○ 既存の町の取り組みに障がい者が参加しやすい工夫等からはじめてみたいと思った。 上記のように、今後、各市町や各行政機関、各スポーツクラブで障がい者スポーツを推進していく上でのヒントを得られたことが分かる記述が多く見られた。このことから、障がい者スポーツの推進をテーマとした本研修会が、参加者にとって有意義なものになったと考える。 福岡教育事務所社会教育室としても、今後も管内市町に対しての支援や情報提供を行い、障がい者スポーツが一層推進されるように、各市町に対して、情報提供や関係機関・団体の紹介などに引き続き取り組んでいきたい。